

平成 24 年 11 月 17 日

第 2 次四街道市男女共同参画推進計画の平成 23 年度事業評価に対する意見

四街道市男女共同参画推進協議会

第 2 次四街道市男女共同参画推進計画の平成 23 年度事業評価に対して、男女共同参画推進協議会より以下のとおり、意見を提出します。

1. 総評

(1) 評価する事項

第 2 次男女共同参画推進計画の 23 年度事業の評価結果には、次の点に進展が認められる。

1) 評価結果

課題ごとの 5 段階評価の結果は、22 年度と同じく、5 課題中 2 課題（課題 4、課題 5）が 3（★★★）、他 3 課題は 2（★★）の評価であるが、各事業の評価結果は、★★★以上が 111 事業中 93 事業で 22 年度より 4 事業増えた一方、★★は 1 事業、★が 3 事業減った。

新たな取組が開始されたことや実施結果・成果が向上したことをもって、9 事業が 22 年度より評価が上がった。一方、9 事業は、いずれも、参加者数利用数の減少など、実施結果が後退したことによって 22 年度より評価を下げた。

2) 成果指標の目標達成度

23 年度現状値が得られた計画の成果指標 17 指標のうち、目標達成度（目標達成効果率）が「0.8 以上：目標達成に向けて十分な成果が認められる」となった指標が 22 年度の 4 指標（23.5%）から 6 指標（35.3%）へと増加した。特に「審議会等委員に占める女性の割合」をはじめ 4 指標は目標値を達成した。一方、「0.3 未満：目標達成に向かう成果はほとんど認められない」となった指標は、22 年度の 10 指標（58.8%）から 7 指標（41.2%）へと減少し、17 成果指標が総じて目標達成の方向に向かっている。

3) 委員の男女比率

成果指標とはしないが、計画の進捗に密接に関わるものとして現状値の推移を見ていく「各委員会、団体等の委員男女比率」は、総じて横ばいであるが、16 項目中 4 項目に男女比 50% に向かう変化がみられる（選挙管理委員、小学校校長、小学校教務主任、PTA 副会長）。

(2) 改善・向上を期待する事項

1) 成果指標の目標達成度

前項（(1) - 2）に記した目標達成に向かう変化は見られるものの、17 成果指標の評価段階の分布は、計画期間の半ばを過ぎた 23 年度でなお、最下段階「0.3 未満：目標達成に向かう成果はほとんど認められない」が最も多く 4 割余りを占めている。「市管理職に占める女性の割合/市職員に占める女性の割合」は 23 年度現状値が基準値を下回り、「保育所入所待機児童数」は基準値を上回った。また、「男女共同参画に関する職員研修の参加者数」は 22 年度現状値より低下した。

成果指標に見る限り、計画はいまだ十分な成果を上げるに至っていない。

2) 委員の男女比率

前項((1)-3))のとおり一部に改善がみられるものの、成果指標に準じて現状値の推移を見ていく「各委員会、団体等の委員男女比率」16件は、23年度値が基準値を下回った「小学校教頭」と「PTA会長」を含め、総じて横ばいである。

3) 事業評価

①評価の根拠に課題がある事業について

事業の成果が向上したことをもって22年度より評価が上がった事業の中に、事業実施と成果向上の関連付けに課題があると思われる事業がある。事業の実施結果や成果にあたる事象の変化には、事業の効果以外の多様な要因が関与し得る。変化がどの程度事業の効果によるものかを厳密に把握することは困難で、事業実施と成果の変化を直接に因果付けることには慎重であるべきではないか。当該事業と関連しあつて成果の向上に資したと考えられる他の取組や要因があれば、それも記していただきたい。

②男女共同参画推進の観点での評価に徹しているか

関連事業の中に、男女共同参画推進の観点というより当該事業の主目的の観点からの評価ではないかと思われる事業が散見される。男女共同参画推進計画を構成する事業は、主目的に関わらず、あくまで男女共同参画推進上どうであったかという観点で評価すべきである。計画策定時に評価の対象となる取組内容を精査されたい。

2. 今後の事業推進に向けた意見

評価の更なる改善とそれを通じた計画の実効ある実施に向けて以下の事項を検討されたい。

(1)「実施上の課題」が再掲される事業

雇用労働に関する男女間の偏りの解消に向けた事業所への働きかけ、地域活動における男女間の偏りの解消に係る働きかけなど、同内容の「実施上の課題」が毎年再掲されている事業が見られる。こうした事業は、次期計画に向けて、計画への位置付け方や、課題について市の事業としてどのような有効な取組を為し得るのか、見直していただきたい。

(2) 有効な情報発信

市民の多くにとって「第2次四街道市男女共同参画推進計画」をはじめ市の男女共同参画推進の取組はなじみが薄く、難解で、情報は受け取られにくく、課題認識も形成されていないと感じる。愛称やキャッチコピーの活用、受け取る側の使いやすさを重視した加工など、多くの市民に届く情報発信を工夫していただきたい。

(3) 評価方法

数値の変化が表現するものは限られている。評価には質的变化も反映されるべきではないか。

(4) 評価結果表

①事業ごとの評価結果の分布は、全111事業についてだけでなく、課題ごとにも示された方がわかりやすい。

②各評価結果は、対象年度の評価結果だけでなく、経年変化がわかるよう、前年度以前の結果も示されるとよい。